

教宣 せぶん

つながっていることの大切さ

「全国で言えば、会社は収保5000万円以上の代理店でも統合・合併させようと暗躍している。10月で代理店に転進される皆さんはぜひ全損保という組織を利用して欲しい。全損保という組織が、また全損保の弁護士が、あなたたちの後ろに控えている、あなたたちとつながっていると会社に思わせることが、この会社と代理店委託契約を結んでいく上で非常に大切だと思うし、有意義なことになると思う。これは先日行われた定期大会の中でのアドバイザーの方の言葉です。この言葉の意味するところを、この会社とたたかってきた私たちならわかるはず。合併後の私たちが勝ち取ったすべての労働条件は、私たちがたたかったからこそその産物であることは言うまでもありません。たたかわなかったら、声を出さなかったら、私たちのいまの労働条件、転進条件などは間違いなく存在しなかったと言えます。

それと同じことが代理店に転進しても言えるのではないのでしょうか。転進される方の本音として「今後、全損保の行動などに参加・協力したら会社から何をされるかわからない」などと考えている方がいるとしたら、それは大きな間違いです。もし、そんなことで差別・嫌がらせをされたとしたら、それこそたたかえば良いのです。会社にそんな差別を正当化する手立て・根拠はありませんし、社会的に見ても大きな問題になるでしょう。そもそも、転進される方が会社から見て仮にここで「おとなしく」なったとしても、全損保の一員としてたたかった事実は変えられません。会社が差別しようと思えば、過去のあなたの「行動」でも行えるはず。ですからここで「おとなしく」なることは、全損保に残ったという自分自身の「選択」さえも否定することになりかねません。

未知の世界に足を踏み入れていくことは誰でも不安になると思います。しかし、先日行われた分会総会に顔を出してくれた代理店になったOBの方は、「できることがあれば何でも協力していく。この総会の場にOBとして声をかけてもらえることは非常に嬉しい。代理店になってみて、この会社の異様さ・異常さが本当に目に付く。全損保のつながりの中で意見交換をすると勇気づけられるし、力がわいてくる。全損保に残るという選択をして良かった」と声を揃えて言ってくれます。

私たちの後ろには、このデタラメな会社の出方・考え方を熟知した、この狡猾な会社と長きにわたって対峙している全損保という組織と弁護士の先生がついていることを忘れないでもらいたいと思います。そのためには、10月以降もつながっていることが大切です。